校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。 今号は、秋田県立能代松陽高校が2年次に実施するインターンシップの 報告書について検討した。



Before

~インターンシップ報告書~	
2年 組 番氏名	
〇 実習場所:	
〇期 間: 月日()~ 月目()	MA TARRESPARITO
〇希望した理由	
〇インターンシップで学びたかったこと	生徒は、実習の前に、参加を望する理由などを「個人カーに、インターンシップ中は3 先での活動内容などを「インタ
○実習内容 (どのような仕事をおこなったのか)	ンシップの記録」という名利日報に記入し、インターンプ後にこの報告書をまとめる。
○事前指揮で学んだことが、実習でどのように役だった	on
○実習で指導されたこと(アドバイスされたことなど)	
○実習で何を学び、これからの学校生活でどのように生	かしていきたいと思っていますか
-6-	

ねらい 同校では、2年生の希望者が夏季休業中にインターンシップ に参加。キャリア観を深め、進路選択に生かせるように、報告書では、実習を通じての学びや気づきを整理させる。3年次の志望理由書や自己PR書の作成などにもつながる振り返りを行わせることがねらい。

課題

- 1 その後の進路選択につながるよう、目的や課題意識を持たせた上で、生徒をインターンシップに臨ませたい。
- ② 学校が育成を目指す3つの資質・能力を意識させた上で、 実習に臨ませたい。

改良会議実施校

秋田県立 能代松陽高校





進路指導主事 **吉田英売** よしだ・ひであき 教職歴 22 年。同校に赴任して 1年目。



進路指導部・教務部 **佐々木隆介** ささき・リゅうすけ 教職歴 11 年。同校に赴任して 8年目。



進路指導部・教務部 **夏井修一** なつい・しゅういち 教職歴9年。同校に赴任して 6年日。

秋田県立能代松陽高校

◎秋田県立能代北高校と能代市立能代商業高 校が統合し、開校。グローバルな視野で未来 を切り拓く力を持つ人間の育成を目指し、自分 の考えを整理し、相手に分かりやすく伝える力、 調査・研究したことをまとめ、整理して効果的 に発表する力を育む教育活動を展開する。 ◎設立 2013 (平成 25) 年 ◎形態 全日制/普通科・国際コミュニケー ション科・情報ビジネス科/共学 ◎生徒数 1学年:約210人 ◎2020年度進路実績(現役のみ) 国公立 大は、弘前大、秋田大、山形大、青森公立大 などに15人が合格。私立大は、仙台大、日 本女子大、日本大などに延べ38人が合格。 短大、専門学校進学85人。就職73人。 OURL http://www.noshiroshoyo-h.akita-pref.ed.jp/

2年生 インターンシップ報告書

After

改良ポイント

- 1 目的や課題意識を明確にしてインターンシップに参加できるよう、参加前に業界の課題などを調べ、実習先で実態を確認させる。
- ② 育成を目指す資質・能力について、 インターンシップ参加の前後で考 える問いを加える。

	期間 月 日()~ 月 日()
インターンシップ参加前の記録	インターンシップ参加後の記録
〕実習先の業界が抱えている課題、今後発展が期待される事柄は何か	●実習先の業界が抱えている課題、今後発展が期待される事柄に、業界や実習先は 具体的にどのように取り組んでいたか
実習先の課題や展を実習先で確認す	望を事前に調べておき、実態るようにする。
②①の課題に対して、または今後さらに発展していくために、その業界が取り組んで いることは何か	●動の取り組みを見て、「もっとこうすればよいのではないか」など、気がついたことは何か
	実習先で経験したことを書くだけではなく、自分 気づきや提案を書かせるようにする。
③あなたが社会に出た時、仕事を通して感じたいやりがいや喜びは何か	❸参加前の記録の③で記した「あなたが仕事を通して感じたいやりがいや喜び」を得るためには、実習先ではどんな働き方をすればよいか
, ,	校として育成を目指す資質・能力について、インター シップの前後で自己評価させ、自己理解を深めさせる。
 ①能代松陽高校が育成を目指す「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」 D3つの力を、今、あなたはどれくらい身につけているか、5 点満点で自己評価しよう前に踏み出すカー(1)(2)(3)(4)(5) 考え抜く力 (1)(2)(3)(4)(5) 	●能代松陽高校が育成を目指す「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」 の3つの力を、あなたはどれくらい身につけているか、インターンシップでの経験を 踏まえて、5点満点で自己評価しよう
チームで働くカ ― (1)(2)(3)(4)(5)	前に踏み出す力―(1)(2)(3)(4)(5) (理由) 考え抜く力 ―(1)(2)(3)(4)(5) (理由)
	チームで働くカ — (1)(2)(3)(4)(5) (理由)
■まとめの問い	

どのような対話を 通じて改良できたのかは、 次ページで!!



インターンシップを、生徒が「仮説→検証」を経験する機会とするために、事前

指導を手厚くしたいと考えていました。しかし、2年生の夏季休業前は行事も多く、さらに時間を割くことは難しい状況でした。改良した報告書を早めに生徒に提示し、取り組ませることで、事前指導の補完になると思いました。



今後は、改良した報告書をIC Tと連動させたいです。生徒は 学習時間の管

理を Classi (*) で行っていますが、そうした日々の記録と、インターンシップ報告書のような節目の記録を一元管理することで、生徒は日々の学習と進路意識を関連づけて高校生活の PDCA サイクルを回すことができるでしょう。



従来の事前学習 はマナー講座な どがメインで、 インターンシッ プの目的や、就

業体験を通して探究する具体 的なテーマを考える時間が十 分ではありませんでした。今 回の改良で、生徒は実習で何 を学ぶのかを明確にして活動 に臨み、実習後には目的の達 成度合いを振り返ることがで きるのではないでしょうか。

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(https://berd.benesse.jp)からダウンロードできます。「HOME →教育情報→高校向け→生徒指導・進路指導ツール集」でご覧ください。



録 実

先生方の 対話のダイジェスト

あらかじめ生徒に言語化させ、

インターンシップの目的を

実習先の業界が抱える課題を事前に考えさせる

事は大変そうだったけれど、やりがいもありそう」と、 らこの仕事が面白そう」といった程度の動機しかな どの仕事でも言えそうな感想しか書けません。 ターンシップへの参加を希望しますが、「参加するな 佐々木 多い年は学年の3分の2程度の生徒がイン す。生徒は報告書にどんなことを書いていますか。 い生徒も多いです。そうした生徒は、報告書でも「仕 現状の報告書の問題点を整理したいと思いま

でのインターンシップの意義を自覚させたいです。 のように成長していくべきかを考え、その過程の中 や将来の目標と結びつけるのが難しいようです。 スすることがありますが、そこでの学びを今の自分 生になって推薦入試の志望理由書などを書く際、イ が得られにくく、報告書の内容は希薄になり、せっ になっているのが課題です。高校3年間で自分はど ンターンシップの経験を交えて書くようにアドバイ かくの経験が後の進路選択につながりません。3年 **吉田** 生徒の中で、インターンシップが単発の活動 **夏井** 目的がないままでの参加では、気づきや発見

生徒一人ひとりが自分なりの目的意識を持つ

らだと考えています。

ませんでした。事前に業界の課題などを調べること えさせたいですね。 を通じて、実習中に確かめたいことをあらかじめ考 向き合っていた?」と聞いても、なかなか答えられ 業界は、どんな課題を抱えていた?」「それにどう したが、参加後に生徒に、「あなたが就業体験した **吉田** 前任校でもインターンシップを実施していま

は、本校の生徒の長所です。業界の課題を調べてお 夏井 活動を具体的に示すとまじめに取り組むの 実習先がその課題に対して具体的にどのような

資質・能力の自己評価の機会にする 抜く力」「チームで働く力」の3つの資質・能力を 佐々木なぜ目的意識を持てていないかと言うと、 てインターンシップに参加するようになるために 掲げていますので、それらも強く意識させたいです。 省の「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「考え どんな社会貢献をしているのか、理解が不十分だか 生徒たちは社会についての知識が乏しく、実習先が は、どのような仕組みが必要でしょうか。 本校は、育成を目指す資質・能力として、経済産業



改良会議を振り返って

学校が育成を目指す資質・能力として掲げる

3年間の教育活動の文脈を生徒に自覚させる

徒が事前に調べたことを実習先に伝えておくこと

先方の受け入れ準備にもつながります。

指示することで、

参加の姿勢が変わりそうです。生

ことに取り組んでいるのかを現場で見てきなさいと

ぞれ自分はどのくらい備えているかを問うだけでな につながったのか、理由まで聞くことを事前に生徒 せるとよいと思います。そして、3つの力をそれ 思うか、インターンシップの事前事後に自己評価さ 3つの力からも考えたいと思います。どのようにす 佐々木 自分は3つの力をどれくらい備えていると プと関連づけて考えやすくなるでしょうか。 れば、生徒たちは3つの力について、インターンシッ インターンシップのどのような経験がその評価

> 実習に臨めるようになると思います。 に示すことで、育成を目指す資質・能力を意識して

働き、 語れるようになるでしょう。報告書の改良を、 後の活動にどうつなげていくのか、生徒は俯瞰的に 菌 外の世界を知る機会になるだけでなく、自分に対す した大きな改革の一歩につなげたいです。 ンシップに参加するのか、そこで学んだことをその ことが重要です。そうすれば、どんな目的でインター ンドデザインを描き、それを教師と生徒が理解する の資質・能力を育むのかといった本校としてのグラ を伸ばしたい」と語れるようにしてあげたいです。 る評価軸をつくる機会にもなります。「この業界で た自己理解を求めたいですね。そうすれば、実習が それを踏まえて生徒にインターンシップを通じ 将来的には、3つの力のルーブリックを作成 社会貢献するために、高校でこの資質・能力 高校生活のどのような教育活動を通じて、ど

若い先生方も含め、学校全体で動き始める機会としたいです。 今回の対話の場を、インターンシップ報告書の改良にとどめず、 学校を活性化させていくには、中堅・若手の活躍が必須です。



捉え直した今回の機会を、私たちの変化の契機にしたいです。 以前からある教育活動を、資質・能力の育成という文脈で 生徒に変化を求めるのであれば、まず教師が変わるべきです 生徒にも体験させる対話の機会を設けたいと思いました。 ていきました。そうした自分の内面を整理する心地よさを 先生方との対話を通じて、自分の中の課題感が具体的になっ

生徒指導・進路指導上、活用で きる指導ツールを、加工可能な でダウンロードできます。

「生徒指導・進路指導ツール集」 https://berd.benesse.jp/magazine/ kou/dwdata/data_kou.php

の日か、その対話の様子を取材させてください 生方の対話の内容も、

改良会議 ファシリテーター

こうの・せんいち 河野仙 高大領域担当責任者 V-EW21編集部

に話が及んだことが印象的でした。その校訓に描 り合う中で、「自主」「創造」「協働」という校訓 形であったと思います。 う、カリキュラム・マネジメントの実践の1つの 整理した今回の改良会議は、部分と全体が響き合 かれる生徒像を育成すべく、教育活動全体を俯瞰 して、改めてインターンシップの活動のねらいを 2015年に連載を開始した本コーナーは、 先生方が感じられている生徒の課題と理想を語

クナンバーをご覧いただければと思います。ウェ 号でいったんの終幕となります。幕間に、ぜひバッ

ブサイトには、これまで改良会議で作成してきた

指導ツールを、加工可能な形式でダウンロードで

照いただきまして、自校でも指導ツールの改良会 のねらいでもありました。ぜひ、記事本文をご参 きるよう、活用時期ごとにまとめています。 議を実践していただければ幸いです。そしていつ 参考にしていただきたいというのが、本コーナー だけでなく、その完成に至るまでに交わされた先 検討を経て磨かれた指導ツールを提供すること 自校での指導ツール検討の

教育のNCXt VIEW2| February 2021